

「働かないで寝ている俺にこんなに美味しい物食くえんだから、兄ちゃはもつともつと、美味おいしい物食くつてんだべな。」

と思い、夜中に兄ちゃが寝ているところ腹を切り開いて見たら、なんと山芋のあつ首とか魚の頭など悪いところばかり食くつていただど。

弟は自分の愚おろかさなげに嘆かなき悲なげしみ毎日泣き苦しみ、神の罰ばつをうけて渡り鳥の時鳥ほととぎすとなつて、

あたたかくなると南の国から飛んで来て、兄ちゃの供養に「ホンゾンカケタカ」「テツペンカケタカ」と朝の暗いうちから口から血を流して一日八千八声鳴かないと、その日の糧食いさくわぎだど。時鳥ほととぎすは一日中鳴くので一杯で、自分の子育ても出来ないのでウグイスの巢に卵を産んで育ててもらうだど。